



第101号 令和6年12月

編集発行 庄内教育事務所 指導課
〒997-1301
東田川郡三川町大字横山字袖東7番1号
Tel.0235-68-1982/FAX0235-66-3015

『不登校未然防止につながる 「これからの魅力ある学校づくり」とは』

10月10日(木)に今年度2回目となる庄内地区いじめ・不登校未然防止推進事業地区協議会を開催しました。今回は昨年に引き続き、国立教育政策研究所 総括研究官 高橋典久氏を講師に迎え、『不登校未然防止につながる「これからの魅力ある学校づくり」とは』というテーマで研修会を行いました。参加した先生方から様々な学びの感想が寄せられました。今後の生徒指導体制の構築や魅力ある学校づくりに向けて充実した研修会となりました。



- 〈参加者アンケートより〉
- ・今登校できている子への支援や声かけを職員で共通理解していきたい。
 - ・私たち教職員が自らの教育活動を問い直し続け、学校が子どもたちにとって安心できて、しかも大切に意味のある場になれるように努めていきたいと思えます。
 - ・子どもにとって魅力ある学校であるために授業改善を図り、明日も来たいと思える学級づくりをしていきたいと思えました。
 - ・学びの多様化が進む中、「学校現場の価値は見出せているか」を深く考えました。
 - ・自校を見直す必要があると感じた。登校の動機付けになるような学校の魅力や魅力ある授業について教職員で話し合う機会を設けてみたい。

魅力ある学校をどこで実現するか？

- ✓ 新たなフィールドを開拓することは働き方改革の観点からも不可能に近い
- ✓ 既存の教育活動の在り方を見直すしかない
- ✓ 子どもたちにとって学校生活の中で最も多くの時間を割いているのは？

授業

「認める」ことの大切さ

「褒め」ようすると、
その子の「良いところ」を探そうとする

- ・ 良いところがたくさんある子は褒められるが、そうでない子は…
- ・ 「良いところ」=教師が望む(教師にとって)の…

「認め」ようすると、
その子の「弱点」や「失敗」も認められる

- ・ 多様性を認め合う学級(学校)に
- ・ チャレンジし(主体的に取り組む)やすい雰囲気

「児童生徒」を主語にして取組を点検・修正する

すべての児童生徒にとって

- 学校行事が
- 先生との関係が
- 授業が
- 部活動が
- 地域とのつながりが
- クラスが
- 小中学校の交流が
- 特別活動が
- 友達とのやりとりが

リサーチが必要 「魅力」 的かどうか？



令和6年度 学校教育の重点 ◆教育の原点である幼児教育



◎幼児期の教育と小学校以降の教育の円滑な接続

庄内では、幼稚園・保育所・認定こども園の新規採用教員研修を2回、中堅教諭等資質向上研修を1回行っています。また、山形県幼稚園教育課程研究協議会、幼保こ小ネットワークづくり研修会を実施しております。現在、幼児期の教育と小学校以降の教育との連携と接続が一層重視されてきており、鳴門教育大学 特命教授 木下 光二 氏からは、「連携は人と人のつながり。接続は、カリキュラムの接続。」と教えていただき、小・中5年経験者研修の皆さんも一緒に学びを深めました。

「遊びは幼児期にふさわしい学び」であり、幼児を見取る視点から「主体的・対話的で深い学び」への示唆も多く得ることができます。小学校以降の教育は、ゼロからのスタートではなく、幼児期の教育の育ちと学びのもと、学び育んでいくことの理解が広まりつつあります。詳しくは、県教育局HPのURL、二次元コードを掲載いたします。どうぞご覧ください。<https://www.pref.yamagata.jp/700012/youjikyoku.html>

第7次山形県教育振興計画【素案】(令和6年10月28日現在) ◇令和6年度末策定予定 【目標】ウェルビーイング※を目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり

※個人、地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることを表す包括的な概念

平成27年5月に第6次山形県教育振興計画を策定し、10年に渡り本県教育の姿を示してきました。社会の多様化、共生社会の実現に向け、令和5年6月に国では「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を総括的な基本方針として新たな教育基本計画を策定しました。それを受け、本県でも、個人と社会のウェルビーイングを目指し、第7次山形県教育振興計画のもと、山形の未来を担う子どもたちを育成する教育を進めていきます。県教育局HPに策定についての詳細や骨子案が紹介されています。URLと二次元コードを掲載いたします。どうぞご覧ください。<https://www.pref.yamagata.jp/700001/bunkyo/kyoiku/iinkai/7kyoushin/7kyoshinnosakutei.htm>



計画指導訪問校に学ぶ Vol.3

【鶴岡市立斎小学校】(校長 砂田 真紀) 11月15日訪問 学校教育目標=元気・本気・笑顔があふれる学校

- (1)今年度の重点目標を「より良く生きようとする向上心と実践力を持つたくましい子どもの育成」とし、知徳体の三視点から目指す子どもの姿を整理し直し、「子どもを主語とする」教育活動を展開している。
- (2)授業においては、「い(意識)・つ(伝え方)・き(聞き方)の学び」を学年毎に子どもたちと共に作り、自分事として意識的に取り組めるようにしている。
- (3)学校と家庭・地域の具体的な連携・協働の在り方についての話し合いを進め、それぞれでできることを明確にして、目指す子ども像の共有を図っている。

【酒田市立西荒瀬小学校】(校長 白田 克幸) 12月2日訪問 学校教育目標=ふるさとを愛し 自ら学び たくましく生きる 子どもの育成

- (1)学校研究主題「主体的に学ぶ児童の育成」(小中一貫教育共通テーマ)を目指し、予習型授業を実践している。クラウドに予習内容をアップし、予習の取組み状況から、子どもたちの学びを事前に把握することで、個別最適な授業づくりを進めている。
- (2)心の相談日を設定することで、子どもたちの悩みや不安な気持ちに迅速に対応している。また、水曜日放課後に先生方で「子どもを語る会」を実施、学校職員全体で子どもたちの情報を共有している。
- (3)子ども基本法をベースに子どもを主語として教育活動を実践している。西荒瀬スポーツフェスティバルを児童会主体の活動に変更し、運営も子どもたちが行っている。児童会総会、委員会、クラブ、学活においても子どもたちが主体となって活動している。